

## 地域の医療連携の中核を担う

# りんくう総合医療センター

問合先 地域医療連携室 (☎469-3111 Fax469-7929)

**産婦人科**  
周産期センター産科医療センター長兼  
産婦人科部長 荻田和秀



りんくう総合医療センターは市立貝塚病院と機能を分担して泉州地域に高度な医療を提供するために「泉州広域母子医療センター」という名前で運営しています。その中でも当院は特にお産や産婦人科救急に関しては全国的に注目される施設です。たとえば、産後の出血が止まらないとか婦人科疾患による腹痛など、緊急の処置・手術が必要な場合もすぐに対応出来るようになっていきますし、早産や持病のある妊婦さんも含めて大阪府下でトップ5の受け入れ実績があります。

お産は病気ではないのですが、何も問題のなかったお産が急に命に関わる状態になったりすることがあります。最近話題になっている産科麻酔の合併症もそうですし、2500人に1人の割合で大出血がおこったりします。持病があるなしに関係なく、「すべてのお産は奇跡」を合い言葉に何かあってもすぐに対応出来るようにしていますので正常妊娠の方も安心して受診してください。それだけでなく今は面会制限もありませんし、某有名ホテルの元シェフが考案したお食事や祝い膳も楽しんでいただき、お土産には泉佐野が誇る「泉州こだわリタル」のオリジナルポンチョを用意しています。

最後になります。10月からTBS（毎日放送）でドラマ「コウノドリ2」が始まっています。当院はそのモデル病院の1つです。ぜひご覧ください。また、来院されましたら2階エスカレーター裏に綾野剛さんや星野源さんの寄せ書きがあるので併せてご覧くださいませ！



**栄養管理科**  
主査 住井諭美



当院には6人の管理栄養士が在籍し、入院と外来の栄養管理を行っています。栄養管理とは、入院給食献立の管理から栄養計画の作成、栄養指導、教室（糖尿病・腎臓病）、回診とカンファレンス、保健指導と幅広い内容になっています。病棟担当の栄養士が食事についての相談も行っています。

栄養状態の低下した患者さんに対しては、医師や薬剤師・看護師・栄養士・言語聴覚士で栄養専門のチーム（NST）を構成、その中で専従を担当し毎週のカンファレンスや回診で病状に合わせた栄養計画の提案を行い、患者さんに対して栄養治療計画の説明を毎週行っています。栄養指導は糖尿病や腎臓病、心臓病、肝臓病、術後食などの治療食について入院と外来で実施し、患者さんの状況に合わせて継続して指導を受けていただくことも可能です。糖尿病の教育入院（2週間）の場合は、入院中に糖尿病教室に参加していただき、また2回の栄養指導を行い個人の生活環境に合わせた栄養指導を行っています。

入院給食は治療食を含め41種類の献立を実施し各疾患に対応した献立となっています。一般食（米飯食）については季節のイベントメニューや調理師がおすすめするメニューを毎月実施し患者さんに喜んでいただけるよう栄養士、調理師が協力し食事を提供しています。昨年リニューアルした妊産婦食は妊婦さんに大変高評価なご意見をいただいています。

最後に、栄養指導については地域の開業医先生からも予約していただける体制をとっていますので栄養指導を受けたいという方がおられましたらかかりつけ医の先生にご相談ください。